シリーズ

今、なぜ中核病院が必要なのか

第２回 中核病院形成検討委員会を開催

７月７日、第２回中核病院形成検討委員会を開催しました。今回の検討委員会では、中核病院の基本的な方向性および経営形態について取りまとめられました。

↑市 HP

■中核病院形成検討委員会

委員長：藤道 健二（萩市長）
副委員長：綿貫（わたぬき） 篤志（あつし）（萩市医師会長）

そのほか、山口大学医学部附属病院長などの学識経験者、萩市社会福祉協議会長などの市民代表の委員、計 10 名で構成。第１回は令和２年１月 31 日に開催しました。

■中核病院形成検討委員会の役割

萩医療圏にふさわしい中核病院として、担うべき医療や中核病院のあり方について検討します。

■協議事項

①中核病院の基本的な方向性について

第１回に引き続き、内容の検討を行いました。

○検討結果（主な項目）

1）**診療機能等の維持**…両病院の診療機能やサービスは統合後の中核病院の機能と地域連携を通して、患者等利用者に不利益にならないよう配慮

2）**中核病院の開設時期**…令和４年４月１日を目標（変更の場合あり）

3）**中核病院のイメージ**…市民に親しまれ、信頼される病院を目指す

・中核病院として担うべき医療の確保
・市民が安心して暮らせる医療の提供
・高い技術と高い志をもった人材の育成・確保
・持続可能で安定した病院経営

○委員からの主な意見・質問

- ２病院の統合が検討されていることについて、市民の理解が得られるよう、引き続き説明を行ってもらいたい。
- 感染症対策について具体的なビジョンがあるか。
  ⇒市民の安心のためにも、感染症対策について、中核病院として必要な体制を関係機関と協議していきたい。

一部文言を修正し、全会一致で取りまとめられました。

なお、委員長（市長）より、統合後の病院の施設について、当面は両病院の施設を活用するが、効率的な病院運営を行うためにも、できるだけ速やかに１カ所に集約したいとの考えが示されました。

②中核病院の経営形態

前回、４つの選択肢（Ⓐ市の直営：地方公営企業法の全部適用、Ⓑ地方独立行政法人化、Ⓒ指定管理者制度、Ⓓ民間譲渡）について検討を行いました。このうち、ⒸⒹは引き受け者を探すことが困難なため、今回、Ⓐ市の直営のまま運営するか、Ⓑ新たに地方独立行政法人を立ち上げるかを比較しながら、検討を行いました。

○経営形態は地方独立行政法人

萩市が設立する、市とは別の独立した法人による経営という方針が全会一致で取りまとめられました。

○委員からの主な意見

- 職員採用や勤務形態、給与体系の導入等において独自に決定できる地方独立行政法人が最も適していると思う。
- 今と同じやり方で、税金が多く投入されることは絶対に避けてもらいたい。
- 地方独立行政法人は柔軟性があり、改革等がしやすいと思うが、その分、理事長や役員の人選が重要

③２病院の機能の比較

④診療科目・医療機能・病床規模について

今後、診療科目等について議論していくにあたり、２病院の特徴を比較しながら、次回以降の検討に必要な資料の確認を行いました。

委員からは、両病院をはじめ、医師会や医師を派遣する山口大学、山口県等の関係機関、市民の理解が必要であり、十分に検討の時間を取ってほしいとの意見がありました。引き続き、多くの方の意見を伺いながら、しっかりと議論を重ね、検討していくことになりました。

★会議の議事概要、資料は市 HP に掲載しています。

第３回中核病院形成検討委員会（予定）
日 8 月 27 日㈭　14:00 ～ 16:00
場 総合福祉センター 多目的ホール

問 中核病院形成推進室　☎ 21-3120